

## 平成 23 年度事業計画及び収支予算(案)について

平成 23 年度庄内観光コンベンション協会事業計画及び収支予算を次のとおり定める。

### 平成 23 年度庄内観光コンベンション協会事業計画（案）

#### 基 本 方 針

庄内観光コンベンション協会事業は、平成 17 年度策定の「庄内観光コンベンション振興プログラム」の 4 つのコンセプト（地域間交流の拡大、魅力ある観光地づくり、国際観光の拡大、コンベンションの誘致）に沿って、平成 17 年度から平成 19 年度の 3 カ年に 16 本の「第 1 期プロジェクト」、平成 20 年度から平成 22 年度の 3 カ年を 14 本の「第 2 期プロジェクト」と定め、観光振興とコンベンション誘致に取り組んできた。

平成 23 年度から平成 26 年度の 4 カ年については、「第 1 期プロジェクト」及び「第 2 期プロジェクト」の事業効果の検証と今後の事業のあり方を民間会員と連携して検討し、11 本の「第 3 期プロジェクト」を定める。「第 3 期プロジェクト」では、コンセプトを「誘客戦略」、「コンベンション等誘致」、「受入態勢整備」の 3 本柱として再構築した上で、コンテンツツールの推進や体験・滞在型交流人口の拡大、各種メディアや新たな情報発信ツールを活用した戦略的情報発信等を展開する。また、庄内観光コンベンション協会に参画する民間会員とのネットワークをより強固なものにし、民間会員ひとりひとりが庄内の観光大使となり各々の分野において積極的に観光誘客を推進するための基盤整備を行う。

コンベンション誘致については、庄内におけるコンベンション開催の適正規模と適正分野を見極めるとともに、学会情報等の調査を元に関係大学等高等教育・研究機関等への誘致を会員と協働して積極的に推進する。また、新たなコンベンション誘致・開催支援ツールの作成やコンベンション開催実績のデータベース化を通して、長期的視点におけるコンベンション誘致に向けた体制整備を進める。

第 2 期プロジェクト期間中の平成 21 年 10 月から 12 月には、新潟県全域と山形県庄内地域を対象エリアに J R グループ 6 社と地域が連携して取り組んだ大型観光キャンペーン「新潟デスティネーションキャンペーン」（以下、「新潟 DC」という。）が開催され、平成 22 年度にはその誘客効果を引き継ぐため、庄内エリア単独事業として「ごっつおだの もっけだの 食の都庄内キャンペーン」を実施した。平成 23 年度以降においても同時期に展開することで、庄内における観光キャンペーンの定着化と庄内地域の観光ポテンシャルの更なる向上を図る。

加えて、秋田県にかほ市、山形県庄内地域と戸沢村、新潟県岩船地域の 10 市町

村を圏域とする「日本海きらきら羽越観光圏推進協議会」と連携し、2泊3日以上  
の滞在型観光に向けた取り組みを推進する。

受入態勢については、また来たいと思う観光地づくりを目指し、二次交通の整  
備や観光ボランティアガイドの育成、庄内ガイドライバーの育成などに努めて観  
光客の満足度を高め、リピーターの確保に努める。

さらには、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による庄内地域の観光  
産業への打撃が深刻であることから、首都圏や西日本にむけた観光プロモーション  
活動等をこれまで以上に積極的に展開することにより、庄内への誘客について  
より直接的な効果を図り、庄内地域経済の活性化に尽力する。

## 事業概要

### 1 誘客戦略

#### (1)コンテンツツーリズムの推進

##### ア 物語を旅する(文学、映画ロケ地等)

- 近年注目を集めている庄内発の文学や映画等を、今後の庄内の観光振興  
における重要なコンテンツであると捉えて広くPR
- 文学作品の舞台や映画ロケ地等を結んだ観光ルートを設定し、ガイド  
ブックや首都圏JR駅等に掲示するポスターを作成し情報発信

##### イ 雄大な自然を旅する

- 近年の健康志向やトレッキングブームを捉え、出羽三山や鳥海山、飛  
鳥、最上川等の自然を満喫できる多様なコースをPR
- 「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン2009」にて星を獲得した名  
所・施設等を効果的に組み入れたガイドブックと首都圏JR駅等に掲  
示するポスターを作製

##### ウ 「食」と「農」体験の旅

- 「食の都庄内」の旬の味覚等を活用し、地元調理師学校や農業者の協  
力を得ながら、「食」と「農」に関する体験プログラムを作成し、県外  
調理師学校等の修学旅行・研修旅行の誘致に活用
- グリーン・ツーリズム実践者と地元観光事業者との連携を図るため、  
「農観連携強化事業」を実施(県委託事業)

##### エ 観光キャンペーンの展開

- JRの重点販売地域指定とタイアップした「庄内花紀行」を展開し、  
受入態勢整備、宣伝・広告、誘客促進の取り組みを通して春の庄内の花々  
や花御膳等のメニューを効果的にPR
- 平成21年度に開催した「新潟デスティネーションキャンペーン」の誘  
客効果を継承し、秋を庄内の観光キャンペーン期間へと定着させるた

めの宣伝PR活動を推進

## (2)体験・滞在型交流人口の拡大

- 首都圏・仙台圏等をターゲットに教育旅行の誘致を図るため、教育関係者・旅行エージェントへのセールス等を展開
- 農家民泊等の要望に対応するため、民泊受入農家の掘り起こし、ネットワーク化による受け皿の拡大を管内市町、関係団体と連携して推進

## (3)観光プロモーションの実施

- 庄内の観光資源の魅力をより直接的・効果的に発信して効果的な送客を図るため、より情報発信の効果が現れるターゲットを検討・設定し、民間事業者である会員と連携したプロモーション活動や観光キャラバンを実施
- 5月9日（月）に首都圏を会場として、元気な庄内を首都圏エージェントやメディア等に広く発信する「がんばろう東北！元気で出羽庄内！キックオフ・ミーティング」を開催

## (4)メディアの活用

- テレビ旅情報番組「やまがた発！旅の見聞録」や旅行情報誌、地元紙等のメディアを活用し、首都圏・仙台圏等へ計画的な宣伝PR
- 管内や隣接圏域の「道の駅」、金融機関県外支店網、高速道路サービスエリア等での情報発信について関係機関と連携
- 庄内空港利用振興協議会と連携し、庄内空港待合ロビー等に四季に応じた電照広告を掲出

## (5)ネットワークの促進

- 民間の会員力を活用し、ひとりひとりが庄内の観光大使として情報発信やおもてなしを行うためのネットワークを構築
- 会員による「庄内ファン」の発掘・勧誘
- ブログ・ツイッター等のウェブツールを利用した情報提供によるネットワークの拡大
- 「羽越本線沿線観光振興連絡協議会」と連携し、ジョイフルトレイン「きらきらうえつ」を活用した広域的取組みによる広域観光を推進
- 秋田県にかほ市、山形県庄内地域と戸沢村、新潟県岩船地域の10市町村を圏域とする「日本海きらきら羽越観光圏推進協議会」と連携し、首都圏・関西圏をターゲットに2泊3日以上の滞在型観光を推進
- 県内他地域との連携による、事業の相乗効果の向上

## (6)インバウンドの誘致推進

- 過去に庄内へ訪れている外国人観光客のデータを元にターゲットとなる対象国を絞り、戦略的な情報発信を展開
- 外国人向け旅行雑誌等への記事掲載を通じて、国内在住の外国人に対して庄内を強くPR
- 平成22年10月に開業した羽田空港国際線ターミナルを活用し、外国

人観光客へのプロモーション活動を展開

- 今後の外国人旅行客増加に対応するため、管内の関係機関と連携し庄内観光コンベンション協会内に窓口を設置し、各種照会や取材依頼等に対応
- 外国人観光客が庄内を訪れた際に対応できる、ケース・バイ・ケースのおもてなしを学ぶための研修会を開催
- 外国人観光客向け旅行商品を造成している旅行エージェントに対して支援を行い、庄内を素材とした旅行商品の造成を促進

## **(7)庄内国内外観光誘客受入態勢整備事業**

- 国外や国内（特に西日本）からの誘客を促進するため、ふるさと雇用特別交付金を活用し、外国語ボランティアガイドの育成や外国語版パンフレットの作成、関西方面への誘客セールスを展開

## **2 コンベンション等誘致**

### **(1)ターゲットを絞ったコンベンション等の誘致**

- 芭蕉や出羽三山、庄内を舞台にした文学作品等、庄内の特性に合致した、中規模から小規模の学会等に対するコンベンション誘致を会員と協働して推進
- 各種スポーツ大会等（全国大会・東北地区大会）の情報を収集し、庄内における開催可能性の可否についての検討と誘致活動を展開

### **(2)情報収集力・発信力の強化**

- 東北地区コンベンション誘致連絡協議会、JCCB等のコンベンション推進団体との連携による学会調査・情報収集
- 山形大学農学部や東北公益文科大学をはじめとする域内高等教育機関の教官等から学会情報を収集して、コンベンション誘致の可能性について検証するとともに、学会事務局・大会主催者への訪問を積極的に展開
- 県人会等のネットワークを活用するため、関係者を訪問し情報収集
- 会員の所属する各業界の学会・会議等の情報を集約し、庄内における開催について働きかけを強化
- 庄内観光コンベンション協会ホームページの随時見直しを図り、最新の観光情報やエクスカーション情報等を発信

### **(3)誘致活動のためのツールの作成**

- コンベンションに関する調査を行い、誘致活動のための管内施設等の基礎データの収集・整理
- これまでの誘致活動やコンベンション開催状況の情報を整理しデータベース化することで、今後のコンベンション誘致活動に活用
- 庄内で開催する学会等について、運営協力、歓迎フラッグの掲出、コンベンションバッグの提供等により支援

- これまで作成してきた歓迎フラッグやコンベンションバッグの他に、より効果的な誘致・支援ツールの検討・作成
- アフターコンベンションへの積極的な働きかけ

### **3 受入態勢整備**

#### **(1)受入態勢の整備推進**

- 年間約 40 万人利用の庄内空港において、農産品やお雛さま等の展示、庄内観光コンベンション協会作成のDVD「とっておき庄内の旅」の放映を行い四季の庄内を演出
- 受入態勢整備の取組みとして、「庄内ひな街道周遊バス」や定期観光バス「庄内おぼこ号」、「庄内藩レトロバス」など着地での二次交通運行を支援するとともに、二次交通の情報発信を積極的に発信することで、観光者の利便性向上を推進

#### **(2)人材(担い手)の育成・ホスピタリティの醸成**

- 新たな観光資源を発掘するとともに、「おもてなしの心」の醸成に向けて更なるステップアップを図るため、エキスパートの掘り起こしと後継者の育成を支援
- 観光タクシードライバー「庄内ガイドドライバー」の第五期生の認証と第六期生の募集
- 庄内在住外国人が母国語でガイドする外国語観光ボランティアガイドを引き続き育成
- 平成 20 年 9 月 17 日に発会した「やまがた庄内たび宿おかみの会」の事業を支援し、旅館・ホテルに関わる情報を新たな魅力として発信

#### **(3)観光地域づくりへの支援**

- 地域での観光交流拡大に向けた地域資源の発掘・磨き上げを行う新たな取組みを支援する「観光まちづくり支援事業」及び「観光地域づくり活性化事業」を実施

#### **(4)宿泊型旅行商品化促進事業**

- 日本海きらきら羽越観光圏推進協議会と連携しながら、ふるさと雇用特別交付金を活用し、滞在型体験メニューの造成や夜型イベントの開催及びそれらのPRを図り、2泊3日以上での滞在型観光を促進

#### **(5)広域観光ルート設定等誘客促進事業**

- 緊急雇用創出特別交付金を活用し、新たな広域観光ルートの設定や受入企画の造成、庄内広域エリアマップの作成を実施

平成 23 年度庄内観光コンベンション協会収支予算（案）

（収入の部）

（単位：円）

項 目	今 年 度 予算額 (A)	前 年 度 予算額 (B)	比 較 増 減 (A) - (B)	摘 要
会 費	6,620,000	6,630,000	△10,000	第1種会員：現在数 166 会員
負 担 金	15,144,000	15,894,300	△750,300	第2種会員
交 付 金 等	21,746,000	18,130,000	3,616,000	やまがた観光キャンペーン推進協議会 ふるさと雇用特別交付金 緊急雇用創出特別交付金 山形県委託費・補助金
事業実施負担金	6,800,000	6,361,000	439,000	山形県
雑 収 入	484	814	△330	預金利子等
繰 越 金	2,357,516	1,205,886	1,151,630	
計	52,668,000	48,222,000	4,446,000	

（支出の部）

（単位：円）

項 目	今 年 度 予算額 (A)	前 年 度 予算額 (B)	比 較 増 減 (A) - (B)	摘 要
誘 客 戦 略	26,523,000	23,005,000	3,518,000	コンテンツツーリズムの推進 体験・滞在型交流人口の拡大 観光プロモーションの実施 メディアの活用 ネットワークの促進 インバウンドの誘致推進 庄内国内外観光誘客受入態勢整備
コンベンション等 誘	2,619,000	280,000	2,339,000	ターゲットを絞ったコンベンション等の誘致 情報収集力・発信力の強化 誘致活動のためのツールの作成
受 入 態 勢 整 備	13,161,000	14,202,000	△1,041,000	受入態勢の整備推進 人材(担い手)の育成・ホスピタリティの醸成 観光地域づくりへの支援 宿泊型旅行商品化促進 広域観光ルート設定等誘客促進
運 営 費 等 (職員人件費含む)	10,365,000	10,735,000	△370,000	職員人件費 事務所借上料 会議費 一般経費 予備費
計	52,668,000	48,222,000	4,446,000	